



すっぴんの家／外観 神奈川県 2002



同上／内観



竹のチャペル 長野県 2000



尾張屋 京都府 1998



ウォーター・ハウス・プレゲンス邸 長野県 1997

連 健夫 *Muraji Takeo*

1956年京都府生まれ。多摩美術大学卒業、東京都立大学大学院修了の後、株式会社巴組工所建築設計部に10年間勤務。1991年に渡英しAAスクールに留学、AA大学院優等学位取得の後、同校助手、東ロンドン大学非常勤講師、在英日本大使館嘱託。1996年に帰国し事務所設立。設計の傍ら明治大学兼任講師、ルーテル学院大学非常勤講師として教育に関わる。著書に「イギリス色の街」(技報堂)、「対話による建築まち育て」(共著、学芸出版)、「高齢者施設の個室ケアマニュアル」(共著、中央法規)などがある。

有限公司 連健夫建築研究室
所在地 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町12-8 渋谷コーポラス209
TEL 03-5456-5134 FAX 03-5456-5160
E-mail takeo-mu@mxi.nisiq.net
URL <http://www.geocities.co.jp/Hollywood/8372>
住宅、住宅地計画、集合住宅、まちづくり、店舗、学校、福祉施設など、新築、改修を問わず様々なものを扱っている。国内外でのワークショップを継続的に実施。

「心と対話する建築」を目指し、癒され、元気になる建築づくりをしています。このため、施主と十分なコミュニケーションをとり、プロセスを大切にした設計をしています。住宅の設計では、心理学からヒントを得て、施主にコラージュ(切り貼り)をつくる頂き、それを理解し、感じ取った上でデザインを心がけています。施主の意識と共に、地域の文化性や土着性を現代建築に活かしていくことに興味があります。プロセスを大切にすることは、建築に新たな意味(コンセプト)を与えることであり、建築に物語性が生まれ、それを使う人にとって大切なものになるとを考えています。この意味では、住民参加のまちづくりのプロセスも大切な物語づくりです。ワークショップを通して、価値感を共有する中で、本物の街・建築が生まれてきます。これらの建築は、ハードな建物のみならず、それに関わる歴史、社会、などソフトなものを捉えることにより、物語性のある文化・芸術になりうるのではないかと考えています。